

# ひろしま 大雨防災 eラーニング

教材活用法&指導例  
ハンドブック

お問い合わせ

広島県 危機管理監 みんなで減災推進課  
TEL:082-513-2781

学習ニーズに応じて  
活用できる!

学習の前に

# ひろしま大雨防災eラーニング について

## 教材制作の目的

風水害から命を守るために必要な防災知識を習得して定着させること。及び、それらの知識を活用し、自分や家族に当てはめた避難等を考えることができる応用力を養うこと。

制作：広島県、監修：広島大学防災・減災研究センター、協力〈单元7〉：広島地方気象台

## 教材の特徴と取り組み方

教材は、以下の8つの单元から構成されています。

单元一覧		学習動画	演習問題
基礎单元 風水害から命を守るための基礎的な防災知識や考え方を学ぶ			
单元①	大雨や台風によって起こる災害の種類と私たちの暮らし	○	○
单元②	災害の危険性や避難先を確認しよう～ハザードマップの見方や使い方～	○	○
单元③	身を守る情報を知って行動しよう～防災気象情報や避難情報の入手～	○	○
单元④	災害への備えをしよう	○	○
单元⑤	防災対策における3つの主体と役割を理解しよう	○	○
応用单元 より一歩進んだ学習をしたいときに			
单元⑥	大雨警報が出たらどうする?～シミュレーション課題～	—	○
单元⑦	プラスワン演習問題集	—	○
单元⑧	マイ・タイムライン(自らの防災行動計画)を作ってみよう	—	○

- 单元①～⑧まで、段階的なテーマで内容を分けているため、**習熟度に合わせた学習が可能。学校の状況に合わせて、单元に取り組む順番や組み合わせを選択できます。**
- 演習問題には、自分や家族などの場合に当てはめ、「**自分ごと**」として取り組める**実践問題も用意**しています。

## [ 单元の取り組み方の一例 ]

学年ごとに  
分けて单元に  
取り組むパターン

1年生

单元① 基礎  
单元② 基礎

2年生

单元③ 基礎  
单元④ 基礎

3年生

单元⑤ 基礎  
单元⑥ 応用

基礎と応用を  
織り交ぜて  
取り組むパターン

(例) 非常持出品や備蓄品について考える学習を行いたい場合

单元④ 基礎

+

单元⑦ 応用  
演習2

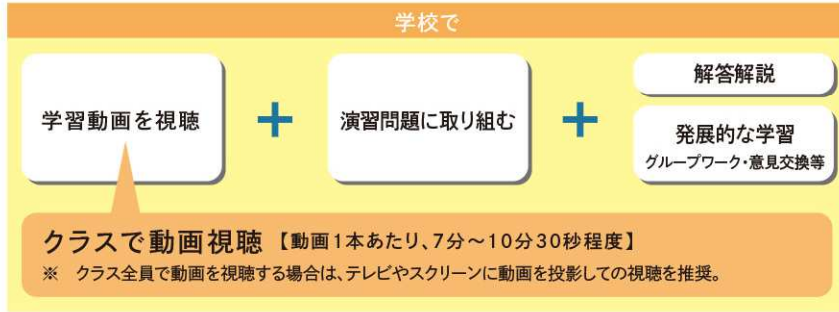
災害への備えを学習し、自分が必要だと思う非常持出品を実際に写真に撮ってアップロードし、グループで意見を交換したり、話し合ったりする。

## 学習動画と演習問題&解答解説の活用法

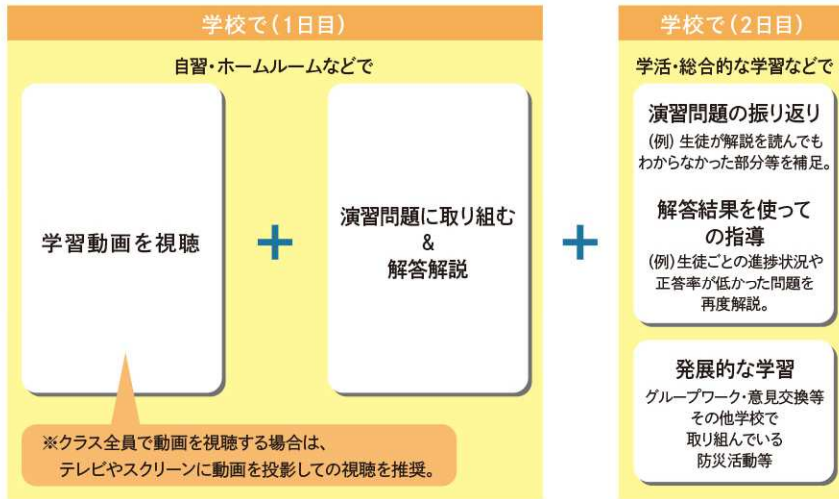
この教材では、**学習動画**と**演習問題&解答解説**を用意しています。  
以下のようなパターン例を参考に、各校の状況に合わせて柔軟にご活用ください。

### パターン1 授業中心で学習

#### ●まとめて実施



#### ●学習の時間を分けて実施



### パターン2 自宅&授業で学習



### パターン3 自宅で学習



## 演習問題&解答解説の凡例

演習問題		設問文を記載。正答選択だけでなく、誤答選択や組み合わせ問題などさまざまな形式があります。
		設問に解答したあと、さらに理解を深めるためのグループワークなどの取り組みを促しています。
		問題を考えるにあたっての情報取得先や重要な視点など、役立つ事項を掲載しています。
		自分や家族などの命を守るために特に重要となる内容について、調べたり考えたりしておいてほしい問題です。単元⑧のマイ・タイムラインの作成の際に必要な要素を含んでいます。
		与えられた課題に対し、「自分ならどうするか?」「自分の場合はどうか?」を考える問題です。(主に単元6で出てきます。)
		「あなたの周囲で、大雨が降ると危険だと思う場所の写真をアップロードしましょう。」など、与えられた課題に応じた場所や物などを探し、写真を撮影してアップロードする問題です。(主に単元7で出てきます。)
解答解説	 	解答では正誤を示し、解説では、正誤ポイントや重要事項などについて丁寧にわかりやすく説明しています。
		演習問題ごとに、習得・定着させてほしい内容を示しています。
		誤答について、どの部分が正しくないのかを詳しく説明しています。
		今回の学習を機に、覚えておいてほしい重要事項やキーワードについて、説明しています。
		調べた内容の理解をさらに深め、考えを広げたり、新たな視点気づいたりする取り組みを促しています。
		考えた内容の理解をさらに深め、考えを広げたり、新たな視点気づいたりする取り組みを促しています。
問題 & 解答解説 共通		自分の行動を振り返ったり、地域のことを考えたりなど、実際に調べることを促し、知識の定着につなげます。
		与えられた課題に対して回答しやすくなるように、また、行動の一例などを理解しやすくなるように、例を提示しています。
		設問や課題について答えたり考えたりするうえの一助となったり、特に意識してほしいポイントなどを示しています。

学習目標と学習課程、  
具体的な学習方法が  
よくわかる!

# ひろしま大雨防災eラーニングを活用した 各単元の指導例・重要ポイント資料

学習の導入例

- 広島県が私たちにもたらす恩恵（自然や食べ物など）には何があるか？また、広島県に住んでいて良いと思うのはどのような点か？
- 大雨が降ったとき、広島県で起こる可能性のある災害には、どのようなものがあると思うか？
- 広島県で過去に起こった自然災害を知っているか？
- 地域で過去に起こった自然災害を調べてみたことがあるか？

学習の目標

自然災害が起こる原因や広島県の自然特性について理解したうえで、防災を学ぶ意識を高めること。

学習項目

- 1 大雨になりやすい原因
- 2 土砂災害とは
- 3 広島県で深刻な土砂災害が生じやすい理由
- 4 浸水災害とは

学習の進め方

学習のねらい 演習問題との対応	学習動画・演習問題の学習内容における重要項目 ● 補足事項 ◆	学習内容を深めるための、生徒への投げかけ★
<p>1 大雨になりやすい原因</p> <p>演習1</p> <p>大雨になりやすい主な3つの原因と、その特徴について理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大雨なりやすい主な3つの原因…停滞前線、線状降水帯、台風。</li> <li>● 台風の中心付近だけでなく、台風から離れた場所でも大雨になることがあることに注意する。</li> <li>◆ 台風に伴い、高潮による災害が起きることがあります。（平成16年台風第18号など。）</li> <li>◆ 近年では、地球温暖化の進行によって、極端な気象現象が繰り返されている。（例：激しい大雨、猛暑日、熱波、干ばつなど。）</li> </ul>	<p>★ 大雨や台風の情報を知るためには、どうしたらよいか？</p>
<p>2 土砂災害とは</p> <p>演習2</p> <p>土砂災害の特徴や、土石流やがけ崩れ発生仕組みを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 広島県では、最近の事例だけでも、平成26年8月や平成30年7月の大雨による土砂災害によって、大きな被害が出ている。</li> <li>● 土砂災害の原因となる現象…土石流やがけ崩れ、地すべりがある。</li> <li>◆ 広島県は土砂災害の原因となる3つの現象のうち、土石流とがけ崩れが起きやすい。</li> <li>● 土石流やがけ崩れは、いつ発生するかの予想が難しいため、土砂災害警戒区域や土砂災害特別警戒区域などにいる人は早めの避難が重要である。</li> </ul>	<p>★ 土砂災害とがけ崩れが発生する仕組みの違いが理解できたか？自分の言葉で友達や家族などに説明してみよう。</p> <p>★ 土砂災害による被害の写真を見て、何を感じたか、周囲の人と話し合ってみよう。</p>
<p>3 広島県で深刻な土砂災害が生じやすい理由</p> <p>演習3</p> <p>広島県で深刻な土砂災害が生じやすい理由を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ①広島県の面積の半分が、大量の水を含むと崩れやすい花崗岩の地質であること、②広島県は平地が少なく、山の近くを開発し、土地を作って建てられた住宅地が多いことから、土砂災害の危険を示す土砂災害警戒区域や土砂災害特別警戒区域の数が全国で最も多い。→約4万8000カ所</li> <li>● 上記の理由のため、広島県は雨の多い地域ではないが、土石流やがけ崩れが起きると、家や人命に被害が生じる深刻な土砂災害となりやすい。（全国で1年間に発生する土砂災害は、約1,400件といわれているが、平成30年7月豪雨では、広島県だけで1,242件もの土砂災害が起こった。）</li> </ul>	<p>★ 自宅周辺にはどのような土砂災害の危険性があるかを、土砂災害ハザードマップで確認したことがあるか？</p> <p>&gt;&gt;&gt;自宅の災害の危険性の確認方法は、単元②を参照。</p>

学習のねらい 演習問題との対応	学習動画・演習問題の学習内容における 重要項目 ● 補足事項 ◆	学習内容を深めるための、 生徒への投げかけ★
<p><b>4 浸水災害とは</b></p> <p>演習4</p> <p>浸水災害の特徴や、洪水・内水氾濫発生仕組みを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 浸水災害の原因となる現象…洪水（外水氾濫）と内水氾濫。</li> <li>● 「外水」と「内水」の言葉の定を知り、「洪水（外水氾濫）」「内水氾濫」発生仕組みの違いを理解できる。</li> <li>● 内水氾濫は近くに川がなくても起こることがある。雨水は、地下道やアンダーパスなど、低い土地に集まるため浸水に注意する。（万が一、避難する際には地下道やアンダーパスを避けることを意識できる。）</li> <li>◆ 防災気象情報や河川の水位の情報、避難情報などには、以下の様な情報があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災気象情報 （大雨注意報・警報、洪水注意報・警報など）</li> <li>・ 河川の水位の情報 （指定河川洪水予報〈△△川氾濫注意情報・警戒情報・危険情報・発生情報〉など）</li> <li>・ 避難情報（高齢者等避難、避難指示など）</li> </ul>                     &gt;&gt;&gt;詳細は、単元③を参照。                 </li> <li>◆ 河川カメラが設置されている川は、河川の水位状況をパソコンなどから確認することができる。</li> </ul>	<p>★ 自宅周辺にはどのような浸水の危険性があるかを、洪水や浸水（内水）ハザードマップで確認したことがあるか？</p> <p>&gt;&gt;&gt;自宅の災害の危険性の確認方法は、単元②を参照。</p>
<p><b>調べてみよう!</b></p> <p>あなたの住んでいる地域では、過去にどのような災害が起きましたか？</p> <p>実践</p> <p>自分の住んでいる地域で、過去にどのような災害が起こったかを知る。</p> <p>※災害を経験したことがあるなど、調べることがつらいと思われる生徒の場合は、無理をして取り組ませる必要はありません。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分が暮らす地域に、過去に起きた自然災害の調べ方がわかる。</li> <li>● 上記を調べることで、災害を自分ごととしてとらえ、自然災害から身を守るために、防災を学ぶ意識を高めることができる。</li> </ul>	<p>★ 自分の住んでいる地域で、過去に災害が起こったことはあるか？また、それはどんな災害だったか？</p> <p>★ 「災害を調べてみてどのように感じたか?」「災害から身を守るためにはどうしたらよいか?」について意見を伝え合ったり、周囲の人と話し合ったりしてみよう。</p> <p>★ 自分の住んでいる地域に、過去に災害がなかった場合は、よく行く場所や親戚の家などで災害が起こったことがないかを調べてみよう。</p>



学習の導入例

- 自分の住んでいる地域で、過去に災害があったかどうかを調べてみる。
- 自宅や学校に、災害の危険性があるかどうかを知っているか？
- ハザードマップを実際に見たことがあるか？ どこで見たとあるか？
- これまでに、ハザードマップを使って、自宅周辺の災害の危険性を調べたことがあるか？
- 災害が起きたときの避難先や避難経路について、家族などと話し合ったことがあるか？

学習の目標





ハザードマップの読み取り方を理解したうえで、身近な地域の自然災害の危険性を判断し、避難先や避難経路を考えることができるようになること。

学習項目

- 1 ハザードマップとは
- 2 ハザードマップの読み取り方
- 3 ハザードマップの詳しい読み取り方  
(土砂災害・洪水ハザードマップを例に)
- 4 避難先や避難経路の考え方

学習の進め方

学習のねらい 演習問題との対応	学習動画・演習問題の学習内容における 重要項目 ● 補足事項 ◆	学習内容を深めるための、 生徒への投げかけ★
<p>1 ハザードマップとは 演習!</p> <p>2 ハザードマップの読み取り方</p> <p>ハザードマップの基本事項を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ハザードマップは、市町ごとに作成されており、凡例は市町によって異なる場合がある。</li> <li>● ハザードマップは、災害種別に作成されている。(土砂災害、洪水、浸水、高潮による災害など。)</li> <li>● ハザードマップで色がついている範囲には、災害の危険性がある。</li> <li>● ハザードマップに色が塗られていない範囲で災害が起きたり、想定された被害よりも大きな被害になったりする可能性があることを理解する。 &gt;&gt;&gt; 「色が塗られていない場所は安全だ」とは言いきれないことに注意!</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ ハザードマップは自宅にあるか？ ない場合は、市町の窓口や市町の公式サイトでハザードマップを入手する。もしくは、災害の危険性のある場所を調べることができるウェブサイトなどを活用する。 &gt;&gt;&gt; 詳しくは、このあとの実践「マイ・タイムライン作成ステップ①」を参照。</li> <li>★ ハザードマップで災害の危険性を確認するとき、気をつけなければならないことを話し合ってみよう。</li> </ul>
<p>3 ハザードマップの詳しい読み取り方 (土砂災害・洪水ハザードマップを例に) 演習?</p> <p>土砂災害のハザードマップの読み取り方を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ハザードマップの凡例をもとに、がけ崩れや土石流による災害の危険性を読み取ることができる。</li> <li>● 土砂災害のハザードマップは、身体や人の命に危害が生じるおそれのある場所を、土砂災害特別警戒区域(赤色)と土砂災害警戒区域(黄色)に分けて示している。特に、土砂災害特別警戒区域は、著しく危険な場所である。 &gt;&gt;&gt; 凡例は自治体ごとに異なることがあるので、必ず凡例を確認する。</li> <li>◆ 土砂災害からの避難方法は、危険な場所から避難をする「立ち退き避難」である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 土砂災害ハザードマップで、自宅の周囲の土砂災害の危険性を確認しよう。</li> </ul>

学習のねらい 演習問題との対応	学習動画・演習問題の学習内容における重要項目 ● 補足事項 ◆	学習内容を深めるための、生徒への投げかけ★
<p>3 ハザードマップの詳しい読み取り方 (土砂災害・洪水ハザードマップを例に)</p> <p>演習3</p> <p>洪水のハザードマップの読み取り方を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「浸水深」とは、水面から地面までの深さのこと。</li> <li>● ハザードマップの凡例をもとに、洪水の危険性を読み取ることができる。</li> <li>● 洪水のハザードマップは、浸水する深さに応じて色分けされている。 &gt;&gt;&gt;凡例は自治体ごとに異なることがあるので、必ず凡例を確認する。</li> <li>◆ 洪水ハザードマップには、「計画規模」と「最大想定規模」がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 洪水ハザードマップで、自宅の周囲の洪水の危険性を確認しよう。</li> <li>★ もし洪水の危険性がある地域の場合、避難所などへの立ち退き避難が必要なのか、2階以上の部屋に避難（屋内安全確保）すべきかを判断しよう。</li> </ul>
<p>4 避難先や避難経路の考え方</p> <p>演習4</p> <p>避難先や避難経路を考えるとときに重要なことを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 避難先や避難経路は、災害が起こりそうになってから考えるのではなく、日頃から家族などで話し合っておく。</li> <li>● 避難先は、避難経路が利用できなくなるなどの場合を考えて、自治体（市町）が指定している避難所や安全な場所にある知り合いや親戚の家など、2か所以上決めておく。</li> <li>● 川が増水する可能性がある場合は、川沿いの道やがけの近くを通らないなど、危ない場所をなるべく避けて、安全なルートを決めておく。また、複数の避難経路を考えておく。</li> <li>◆ 自治体（市町）が指定している避難所は、対応する災害種別がハザードマップに記載されている。 &gt;&gt;&gt;全ての災害に対応しているわけではない。また、「洪水の場合、2階以上を避難スペースとして活用できる」等の条件が付いている場合もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 土砂災害や洪水が起きて避難する場合、自宅の近くに危険な場所はあるか？また、なぜ危険か？</li> <li>★ これまでに、家族などで自然災害が起きたときの避難先について話し合ったことがあるか？</li> <li>★ 話し合っていない場合、避難先を考えてみよう。また、なぜその場所を避難先にしたのかという理由も考えてみよう。</li> </ul>
<p>自宅の災害の危険性を調べてみましょう</p> <p>実践1</p> <p>マイ・タイムライン作成ステップ①</p> <p>ハザードマップを使って、自宅の災害の危険性を調べることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自宅や学校、自分がよく行く場所など、「どこに」「どのような」災害の危険性があるか理解できている。 【学習の内容を実践】</li> <li>● ハザードマップ以外に、災害の危険性を調べる方法を理解している。</li> </ul> <p>・国土交通省ハザードマップ      ・土砂災害ポータルひろしま</p>   <p>・洪水ポータルひろしま      ・高潮・津波災害ポータルひろしま</p>  	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ ハザードマップで自宅の災害の危険性を確認する。（同じ地域の人でまとまって、ハザードマップの確認を実施してもよい。）</li> <li>★ 自宅の周辺や学校、自分がよく行く場所などに、災害の危険性があるか調べてみる。</li> </ul>
<p>あなたの避難先を考えてみましょう</p> <p>実践2</p> <p>マイ・タイムライン作成ステップ②</p> <p>ハザードマップを使って、避難先や避難先までの避難経路を考えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 災害の危険性を踏まえて、避難先を考えることができる。</li> <li>● 避難先までの避難経路を、複数考えることができる。</li> <li>◆ 自宅が安全な場所にある場合は、「自宅」を避難先にすることが可能。いざというときの安全のために、もう1つの避難先を考えておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 「避難先はどこにしたか？」「どのような経路を通って避難するか？」について、周囲の人と話し合ってみよう。 (例) ・同じ地域に住む生徒ごとにとまって、ハザードマップを使って避難先や避難経路等を考えてもよい。</li> <li>★ 避難先に行くまでの経路で、大雨が降ると危険な場所はあるか？</li> <li>★ 避難先を決める場合は、避難先までの程度時間がかかるかを考えておく。</li> </ul>

学習の導入例

- 自宅の災害の危険性や避難経路を確認しているか？
- 災害になりそうなほどの大雨は何を見て判断したらよいと思うか？
- テレビのテロップなどで、大雨警報や警戒レベル、避難情報という言葉を見聞きしたことはあるか？
- 今まで、大雨が降ったときに避難をしたことがあるか？（避難した人は、何をもとに避難を判断したか？）
- 自宅の災害の危険性や避難経路を確認しているか？

学習の目標




避難情報などの特徴や入手方法を理解し、自分やまわりの人が適切なタイミングで避難できるようになること。

学習項目

- ① 防災気象情報
- ② 警戒レベルと避難情報
- ③ 避難情報の正しい見方
- ④ 情報の入手方法

学習の進め方

学習のねらい 演習問題との対応	学習動画・演習問題の学習内容における重要項目 ● 補足事項 ◆	学習内容を深めるための、生徒への投げかけ★
<p>① 防災気象情報</p> <p>「防災気象情報」「避難情報」の内容について理解し、これらの情報を活用することが、身を守る行動につながることを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「防災気象情報」は、気象庁や都道府県などから発表される。</li> <li>● 「防災気象情報」は、住民に大雨などの状況を伝えるだけでなく、災害の危険度を認識し、避難準備などを進めてもらう役割も持つ。</li> <li>◆ 大雨警報等のほか、以下のような情報があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・土砂災害警戒情報</li> <li>・指定河川洪水予報</li> <li>（△山川氾濫注意情報・警戒情報・危険情報・発生情報）</li> </ul> </li> </ul>	<p>★ 大雨注意報・警報など（動画に出てくるもの以外）のほか、どのような防災気象情報があるか？それはどんなものか？</p>
<p>② 警戒レベルと避難情報</p> <p>演習1</p> <p>警戒レベルと避難情報の対応を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「防災気象情報」と「避難情報」は、1から5までの5段階の警戒レベルを使って伝えられており、数字が大きくなるほど、災害の危険度が高くなる。</li> <li>● 「避難情報」は、住んでいる市町から発令される。</li> <li>● 避難を開始するタイミングは、住んでいる場所や避難に時間のかかる人がいるかによって異なる。</li> </ul>	<p>★ 警戒レベルや避難情報という言葉を見たことがあるか？それはどのような場面で聞いたか？</p>
<p>③ 避難情報の正しい見方</p> <p>演習2</p> <p>適切なタイミングで避難するためには、避難情報の詳しい内容（取るべき行動）を正しく理解する必要があることに気づかせる。また、自分や家族などの場合に当てはめて、「自分ごと」として避難のタイミングを考えられるようになる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 危険な場所にいる人は、警戒レベル3または4で避難を開始。 <ul style="list-style-type: none"> <li>（ ・警戒レベル3：避難に時間がかかる人（高齢者・障がいのある人・乳幼児・妊婦など）とその支援者。土砂災害特別警戒区域などの著しく危険な場所にいる人</li> <li>・警戒レベル4：上記以外の危険な場所にいる人は避難</li> </ul> </li> <li>● がけのすぐそばなど、より危険な場所に住んでいる人は、避難情報の発表を待つことなく、自分たちの判断で、早めに避難することが大切。</li> <li>● 安全な場所にいる人は、避難しなくてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt;&gt;&gt;自宅の災害の危険性の確認方法や自宅を避難先にする場合の詳細は、単元②を参照。</li> </ul> </li> <li>◆ ペットを飼っている人で、避難に時間がかかる場合は、警戒レベル3で避難。 <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt;&gt;&gt;ペットと避難する人はあらかじめ同行可能な避難先やペットを連れて避難できる場所（例.親せきの家）を確認しておく。</li> </ul> </li> </ul>	<p>★ 家族などの中に、警戒レベル3で避難を始める必要がある人はいるか？</p> <p>★ 親戚や知り合い、近所の人の中で、警戒レベル3で避難を始める必要がある人はいるか？</p>

学習のねらい 演習問題との対応	学習動画・演習問題の学習内容における 重要項目 ● 補足事項 ◆	学習内容を深めるための、 生徒への投げかけ★
<p><b>4 情報の入手方法</b></p> <p>防災気象情報や避難情報の入手方法を理解する。</p>	<p>● 情報の入手先</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ テレビ、ラジオ</li> <li>・ 広島県防災Web (防災気象情報の発表状況や、避難情報などの情報をはじめ、土砂災害の危険度などをリアルタイムで確認)</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広島県防災情報メール通知サービス</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緊急速報メール</li> <li>・ 信頼できる市町などからのSNS</li> </ul> 	<p>★ 動画で紹介されたもの以外で、避難情報などの情報の入手先はあるか、話し合ってみよう。 (例) 防災行政無線、防災アプリ等</p> <p>★ 実際に情報を入手できるサイトを触ってみよう。 (例) 広島県防災Webを触ってみて、使い方やどのような情報が入手できるかを見つける。</p> <p>★ 自分はどこから情報を入手するか、その情報の入手先(テレビ等)から情報を入手するうえで気をつけなければならないことを話し合ってみよう。 (例) ・ 停電になったら、テレビが使えない。 ・ スマートフォンは電池の残量に注意。</p>
<p><b>あなたの避難開始のタイミング</b></p> <p>実践</p> <p><b>マイ・タイムライン作成ステップ③</b></p> <p>自分や家族などの避難開始のタイミングを考えることができる。</p>	<p>● 家族などの構成や住んでいる場所等の状況を考え、自分の避難のタイミングを考えることができる。 【学習した内容を実践】</p> <p>● 単元②【マイ・タイムライン作成ステップ②】に取り組んでいる場合は、避難先に行く時間なども考慮できている。 【複合的な要因を加味した避難のタイミングが考えられる】</p> <p>◆ 家族などに避難に時間のかかる人がいない場合でも、住んでいる場所によっては、早めに避難したほうがよい場合もある。 (例) ・ 土砂災害特別警戒区域等、著しく危険な場所に住んでいる人。 ・ 山間部に住んでいる、避難先が遠いなど避難に時間がかかる人や、徒歩での避難が難しい人。(車での避難が必要な人。)</p>	<p>★ 自分やまわりの人の場合、誰が、警戒レベル3・警戒レベル4のどちらで避難するか? またその理由は?</p> <p>★ 自分が決めた避難先に避難するには、どの程度時間がかかるか? (悪天候であること、一緒に避難する人の歩くペース、避難するときの装備などを考慮する。)</p> <p>★ 自宅を避難先にしていない場合、もしものときを考えて、避難を考えてもらいたい。 (例) 台風で飛んできたものが窓ガラスを割り、家にいることができなくなった。</p>

学習の導入例

- 自分や家族などは、非常持出品を用意しているか?
- ライフラインが止まるなどしたときのために、自宅に備蓄品を準備しているか?
- 自分や家族に必要な非常持出品について話し合ったり、避難する場合を想定して話し合ったりしたことはあるか?
- 実際に避難したことがあるか? また、避難はしなかったものの、避難の準備をするような状況になったことがあるか?
- 災害が起こりそうなときや避難が必要になったとき、どんな物が必要だと思うか?

学習の目標

災害に対する日頃からの備えや、災害の危険が間近に迫った時の行動を理解し、それらについて家族などと話し合い、今日からでも災害に備えること。

学習項目

- 1 日頃からの備え
- 2 災害の危険が間近に迫ったときの行動や準備

学習の進め方

学習のねらい 演習問題との対応

学習動画・演習問題の学習内容における  
重要項目 ● 補足事項 ◆

学習内容を深めるための、  
生徒への投げかけ★

1 日頃からの備え  
(非常持出品・備蓄品)

演習

非常持出品や備蓄品の備えについて理解する。

- 非常持出品...安全に避難するために必要最低限持ち出すもの。  
備蓄品...ライフラインや物流が止まったときのため、家などに備えておくもの。
- 非常持出品や備蓄品は、定期的に必要なものを見直したり、食料品の賞味期限などを点検したりする必要がある。
- 非常持出品や備蓄品で用意するものは、家族構成によって異なる。  
(例)  
・乳幼児や高齢者がいる家庭など。
- ローリングストックの具体的な内容について理解する。
- 備蓄の目安は、家族の人数分×最低3日分である。  
>>>できれば週間分を備える。
- ◆ 非常持出品や備蓄品の用意以外にも、日頃からできる備えとして、ハザードマップで災害の危険性や避難先の確認、家族などとの連絡方法の確認、学校や地域の防災訓練への参加などがある。  
>>>災害の危険性や避難先の確認については、単元②を参照。

★ 自分や家族などは、非常持出品を用意しているか? また、自分の家には、備蓄品があるか? 用意している場合はどのようなものを用意しているか?

学習のねらい 演習問題との対応	学習動画・演習問題の学習内容における 重要項目 ● 補足事項 ◆	学習内容を深めるための、 生徒への投げかけ★
<p><b>2 災害の危険が間近に迫ったときの行動や準備</b></p> <p><b>演習2</b></p> <p>災害の危険が間近に迫ったときに、取るべき行動を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 災害の危険が迫ったときには、避難情報や防災気象情報などの最新情報を確認する。</li> <li>● 避難するまでの時間を使って、家の戸締まりや非常持出品袋の用意など、必要な準備をする。</li> <li>● スマートフォンは情報収集手段や連絡手段として重要となるので、避難するまでの間に、スマートフォンやモバイルバッテリーを充電しておく。</li> <li>● 非常持出品袋は日頃から用意しておき、誰がどの袋を持つかを決めておく。</li> <li>◆ 市町の指定する避難所や避難場所へ避難する場合は、市町のウェブサイトなどで開設状況を確認してから避難する。</li> <li>◆ 危険な場所にいる人は、警戒レベル4までに、必ず全員避難する。</li> <li>◆ 非常持出品袋は、玄関などの持ち出しがしやすい場所に備えておく。</li> </ul>	<p>★ 災害の危険が迫り、避難を考えるような場合、自分はどのような行動をするか決めているか？ また、そのようなとき、自分や家族などの役割は決まっているか？</p>
<p><b>あなたや家族に必要な非常持出品を考えてみましょう</b></p> <p><b>実践1</b></p> <p>自分や家族などにとって、どのような非常持出品が必要かを考えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 家族構成によって必要な非常持出品は異なる。</li> <li>● 非常持出品は、たくさん用意すればよいものではないことを理解する。(避難時に持ち運ぶことができる量。) &gt;&gt;&gt;非常持出品袋の重さの目安…男性は約15kg、女性は約10kg。</li> <li>◆ 非常持出品袋を用意したら、一度背負って重さを確認してみるとよい。 &gt;&gt;&gt;広島県「みんなで減災」はじめての一歩「防災グッズ一覧」ページ <a href="https://www.gensai.pref.hiroshima.jp/prepare/goods.html">https://www.gensai.pref.hiroshima.jp/prepare/goods.html</a></li> </ul>	<p>★ 自分や家族などの非常持出品として考えたもので、特徴的なものはあるか？ またそれは、なぜ必要なのか？ 周囲の人と話し合ってみよう。</p>
<p><b>命を守るために日頃からできること</b></p> <p><b>実践2</b></p> <p><b>マイ・タイムライン作成ステップ④</b></p> <p>命を守るために日頃から準備や行動(自助・共助)について考えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大雨が降ったときのことを想定し、自分ができる具体的な行動について考えることができる。 &gt;&gt;&gt;「公助」を加えた3つの「助」については、単元⑤を参照。</li> <li>◆ 平成30年7月豪雨災害でも、「共助」の重要性が注目されている。</li> </ul>	<p>★ 自分が記入した内容や、新たに考えついた準備や行動(「自助」「共助」)について、周囲の人と意見を交換してみよう。</p> <p>★ 夜に大雨が降りそうときや一人で家にいるときに、どうしたらよいかを、周囲の人と話し合うなどしてみよう。</p>

学習の導入例

- 「自助」「共助」「公助」という言葉を聞いたことがあるか?
- 地域の人に挨拶したり、地域の行事に参加したりなど、日頃から地域との関わりを持っているか?
- 災害の危険が迫ったときに備えて、日頃から自分が行っている対策があるか?
- 実際に避難したことがあるか? また、避難はしなかったが、避難の準備をするような状況になったことがあるか?

学習の目標

防災対策の3つの主体である「自助」「共助」「公助」の役割を理解するとともに、自助や共助において自分はどんなことができるのかを考えられるようになること。

学習項目

- 1 行政が取り組む「公助」
- 2 助け合いの「共助」
- 3 一人一人が取り組む「自助」

学習の進め方

学習のねらい 演習問題との対応

学習動画・演習問題の学習内容における  
重要項目 ● 補足事項 ◆

学習内容を深めるための、  
生徒への投げかけ★

1 行政が取り組む「公助」

演習1

「公助」の役割について理解する。

- 公助とは、国、県や市町、消防や警察などの行政が、住民の安全と安心を確保するために取り組む対策のこと。
- 公助には、「ハード対策」と「ソフト対策」がある。  
(例)  
・ハード対策：砂防堰堤の整備や河川改修など。  
・ソフト対策：ハザードマップの作成や災害派遣活動の支援など。
- 行政は公助に取り組んでいるが、行政だけで全ての災害に対応することはできない。  
(例)  
・平成30年7月豪雨災害。
- ◆ 大規模な災害に対して公助だけで対応できない場合もあるため、自分や家族などの命を守るための「自助」や、地域やコミュニティといった周囲の人たちと助け合って命を守る「共助」に取り組むことがとても重要。  
≫災害への備えの詳しい内容については、単元④を参照。

★ 公助の取り組みであるハード対策やソフト対策を見たことがあるか? また、それはどのようなものか? 周囲の人と話し合ってみよう。

2 助け合いの「共助」

演習2

「共助」に関する行動について理解する。

- 共助とは、地域やコミュニティといった周囲の人たちが協力して助け合うこと。
- 自分たちにできる共助の例を理解する。
- 災害の危険が迫ったとき、地域やコミュニティの人たちと助け合うためには、日頃から地域とどのように関わることが大切かを理解する。  
(例)  
・地域の人とあいさつをする。日頃から避難訓練、清掃やお祭りなどの地域行事に参加し、コミュニケーションを図る。

★ 自分たちが避難時にできる共助にはどのようなものがあるか、周囲の人と話し合ってみよう。

★ 災害が起こりそうなときに、地域の人たちと助け合うために、自分たちが日頃からできることとしてどのようなものがあるか、周囲の人と話し合ってみよう。

<p>学習のねらい 演習問題との対応</p>	<p>学習動画・演習問題の学習内容における 重要項目 ● 補足事項 ◆</p>	<p>学習内容を深めるための、 生徒への投げかけ★</p>
<p>3 一人一人が取り組む 「自助」</p> <p>演習3</p> <p>「自助」に関する行動や役割について理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自助とは、自分や家族の命を守ること。</li> <li>● 日頃からできる自助の例を理解する。</li> <li>◆ 災害が起きたときに、すぐに救助隊などの助けが来るとは限らない。自分や家族の命を守るように、自分たちができる備えを進めておくことが大切。</li> </ul>	<p>★ 自分が実践している、または自分ができると思う自助にはどのようなものがあるか、周囲の人と話し合ってみよう。</p>
<p>考えてみよう!</p> <p>どのように避難を呼びかける?</p> <p>実践!</p> <p>地域の人などに対する、避難の呼びかけ方がわかる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 状況設定を理解して、避難の呼びかけ方を考えることができる。</li> </ul>	<p>以下のような点について、グループで話し合ってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ 避難の呼びかけを考えてみて、どのようなことを感じたか?</li> <li>★ それぞれが記入したものについて、どのような点が良いか、もっと工夫できる点はあるか、などについて話し合ってみよう。</li> <li>★ もし、災害の危険が迫ってきて避難する場合、地域の誰に避難を呼びかけるか? また、なぜその人に避難を呼びかけたほうがよいと思うか?</li> <li>★ 地域とのつながりを築くために、どのようなことをしたらよいか、どのようなことができるか?</li> </ul>